

わんつCAR 出発セレモニー



陳列された商品などを見学する畑中村長・丹内議長



関係者によるテープカットの様子



津軽三味線奏者の八月朔日 健太さん

また、買物支援車“わんつCAR”が走行時に流すBGMの作曲を担当した八月朔日さんが、寒立馬をイメージしたという楽曲に込めた思いを話しました。
「寒立馬のようにみんなに愛される存在になつてほしいと願いを込めて作曲しました」と説明しました。



最優秀賞：三國 巧さん

三國さんは「自分が考えた名称“わんつCAR”が採用され、素敵村内に走り出す姿を見たと、とても感動しました。たくさんの人に愛される存在になつてほしいです」と話しました。



優秀賞：橋端 ゆいさん

広報ひがしどおり令和4年新年号第678号で買物支援車の『名称』を募集したところ、45件のご応募をいただき、その中から最優秀賞に“わんつCAR”、優秀賞には“はしえまー”が選ばれ、受賞したお二人に対し、記念品が贈られました。

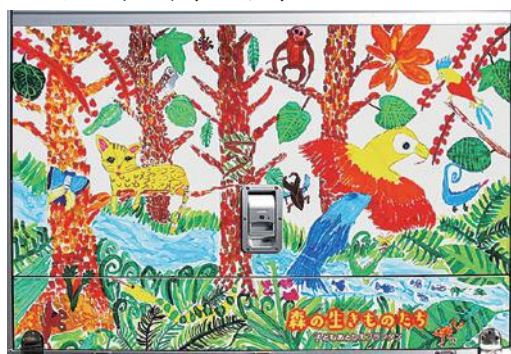
わんつCARのデザインを担当 “子どもあとりえフランタン”



『左面』“縄文の暮らし”



『後面』“海の生き物たち”



『右面』“森の生き物たち”

『左面』縄文の暮らし
縄文時代は一万年も続いた時代と言われ、先人たちは狩りをし、魚を捕り、火を起こして煮焚きするなど沢山の工夫がありました。
小学5年生7人が三内丸山遺跡へ行き、縄文時代を想像して共同で描きました。

『後面』海の生き物たち
色とりどりのサンゴの海で、スイスイ気持ち良さそうに泳ぐ魚たち。自分たちも一緒に泳げたらどんなに気持ちいいだろうと想像して小学2年生6人が共同で描きました。

『右面』森の生き物たち
子どもたちは、ひとつでも生き物を大切にしたいという願いを込めて、小学2年生5人が共同で描きました。

これらの子どもたちの絵が車となつて東通村を走り、東通村の方々が少しでも明るく、元気な気持ちになつてくれたらという思いが込められています。

“子どもあとりえフランタン”は、子どもの為のアイト教室で、現在、幼児5歳から社会人28歳まで、ハンディキャップのある子を含め、様々な個性ある55名がアート制作に取り組んでいます。ジャンルに捕らわれず、様々な材料、様々な手法で制作しています。